

むにんがん 無人岩



小笠原村父島のうぐいす砂



まるべりわん
地層名：円縁湾層
地質時代：始新世
産地：東京都小笠原村父島プタ海岸
展示場所：第4展示室

5cm

GSJ R57584

むにんがん

無人岩（あるいはボニナイト）は小笠原諸島の一部を構成する、かつての海底火山で噴出した岩石です。その名前は、小笠原諸島を指して呼んだ無人島（ぶにんじま）が由来とされます。無人岩はマグネシウムを多く含むガラス質の安山岩で、ふつうの安山岩なら含んでいるはずの斜長石を含まないことや、単斜エンスタタイトという無人岩にしかない特別な鉱物を含むことなどで、世界的にも他に無いたいへんめずらしい岩石です。そのため、無人岩は「東京都の岩石」に、またそこに含まれる単斜エンスタタイトは「東京都の鉱物」に認定されています^{※1}。

また、古銅輝石（あるいはブロンザイト）^{※2} という黄緑色の鉱物を含むのも無人岩の特徴です。露出した無人岩は大部分が風化してしまっていますが、古銅輝石は比較的残りやすく、父島の初寝浦などでは、古銅輝石をたくさん含んだ「うぐいす砂」がひろがるグリーンの砂浜が有名です。

小笠原は、4千万年余り昔、現在の宮崎県沖から南へのびる九州 - パラオ海嶺として成長した海底火山列の一部でした。その後、海嶺はたて方向に割れ、その割れ目が東西に拵がりながら四国海盆が形成されたことによって、小笠原は現在の位置まで旅をしてきました。小笠原は広い太平洋の中に位置し、生物種が独自の進化をとげたたいへん貴重な場所ですが、そこを構成している無人岩もまたとても貴重で特別な存在なのです。

※1「県の石」：2016年、日本地質学会による選定。

※2「古銅輝石」：輝石の一部で、国際鉱物学連合（IMA）の命名規約では現在使用されていない。（地質標本館長 森田澄人）